R5実施　市民一人一人の移動を再現し、各種政策の効果を見える化する『まちぐるみシミュレーションシステム』の構築

大学
藤原　章正
広島大学 IDEC国際連携機構　教授

市担当課
×
建設部
技術企画課

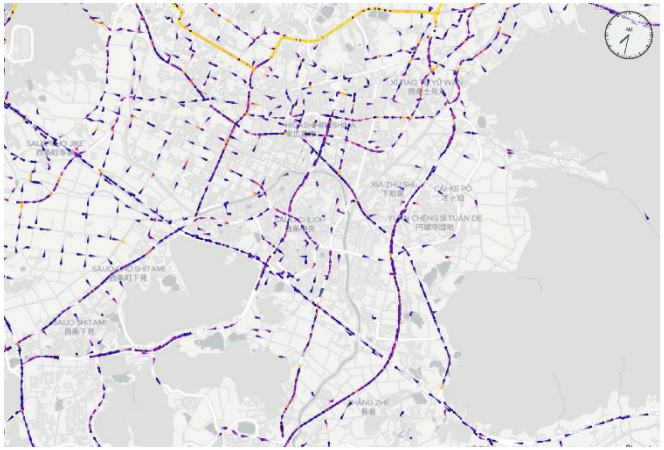
関係機関
×
株式会社サンワコン

1 課題

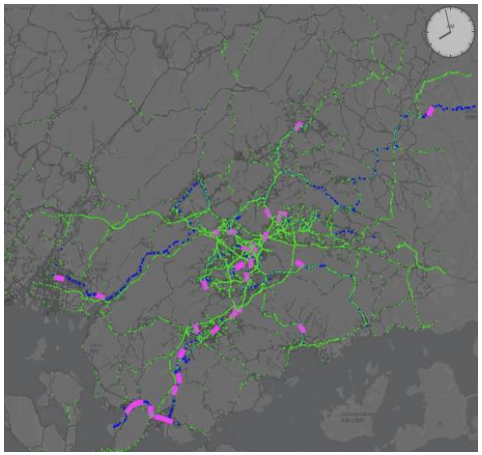
道路整備の必要性の評価を一般的な評価手法（費用便益分析等）に依拠することが不自然なケースが少なくなく、統一的な基準の整備が追いつかないままの状態に留まっている。

2 概要

交通シミュレーター（ＭＡＴＳｉｍ(マットシム)）を活用し、道路整備事業の要否や優先度の判断を支援する新たな評価指標の提示及び適用可能性等を検証するもの。



▲MATSim一般車の挙動（スクリーンショット）



▲MATSimバス車両の挙動（スクリーンショット）
[赤：バス車両；緑：一般車両；青：バス停]

3 研究成果　データ取得・分析

・令和４年度に構築したMATSimプロトタイプの精度等を高めるための改善を行った。
・道路整備の評価として、道路事業とBRT導入の同時実施による交通影響やその評価方法を検討した。

4 今後の展望・現状　事業実施に向け調整中

ＭＡＴＳｉｍによるシミュレーターの実装は研究段階のため、市の実務上での利活用には至っていない。ただし、本研究は内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（ＳＩＰ）」に採択され、道路整備や自動運転・隊列走行BRTを基軸としたモビリティ導入による交通シミュレーション、交流量などの施策インパクト評価を行うなど、シミュレーターの研究開発と社会実装に向けた施策とが連携して展開していく予定である。